

RM INFORMATION VOL.32

INFORMATION 2005.8

発行 株式会社日本アルマック 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5桜井ビル4F TEL : 03-3288-2755 FAX : 03-3288-2757

8月号CONTENTS

社会問題化したアスベストの恐怖

リスクファイナンスとしての保険活用 第29回 生命保険商品の基本

企業の社会的責任とコンプライアンス 第1回 企業の社会的責任(CSR)とは

時流を読む 「カード情報不正利用被害」「進むグローバル化」

今後も増え続ける損害賠償、企業に大きな経済的負担

社会問題化したアスベストの恐怖

石綿(アスベスト)死亡75名、療養中18名という多くの被害を出している大手機械メーカーでは、他の石綿メーカーや業界団体とも連携して、石綿(アスベスト)被害の治療法確立などを支援する基金の創設を進めています。

石綿(アスベスト)は、国内では青石綿が平成7年4月以降、白石綿については平成16年10月以降法律で使用禁止されました。

これにより国内石綿使用量は大部分が削減され、今後石綿ばく露防止対策は建築物の解体等の作業が中心になります。

本年7月「石綿障害予防規則」が施行されて、各メディアも国内石綿被害の実態を連日詳しく取り上げるようになってきました。アスベストによる健康被害は、治療法が確立されてなく、かつ今後被害者が増加することが現実視される社会問題なのです。

石綿を労働者が大量に吸い込む状況下では、家族でも着衣などを通じて吸引し、ガンの中皮腫等を発症する例もあります。

(石綿障害予防規則の施行で、作業着の現場からの持ち出しがようやく禁止されるようになりました)

石綿による健康被害の多くが「中皮腫」といわれるものです。また「中皮腫」の約80%は石綿による原因といわれており、国内でも毎年中皮腫の患者が増加しています。

国内中皮腫死亡者数は、1995年から2002年の8年間で5,182人にのぼり、さらに2000年から2029年に至る30年間で死者5万8000人程度になると予測されています。海外でも同様に増加しており、現在でも毎年1万人~1.5万人が死亡しているとのことです。

一方、損害賠償請求の対象となる企業側にとっては、大きな経済的負担が今後発生することになります。訴訟社会で有名な米国では、原告の数が年を追うごとに増加し、60万人を大きく上回っているそうです。さらに、新しく訴えている人の90%が石綿(アスベスト)による肺がん等の健康被害が顕在化しておらず、将来的に健康を害する恐れがあるということで巨額の損害賠償を求めている人だと言われています。

石綿を吸引することによる健康影響は、粉塵を吸ってから20年から30年たち突然肺がんや悪性中皮腫、胸膜等のガンなどの恐ろしい健康被害をもたらすのが特徴です。日本も米国型訴訟制度に近づいてきており、今後予断を許さない状況です。

リスク ファイナッシング としての 保険活用

第29回 生命保険商品の基本

財務リスク対策の一つに生命保険を活用した対策があります。一般的に支払われている生命保険料も損害保険料と比べると高額になることのほうが多いため、上手に活用することで効果的な財務リスク対策が期待できます。

前回より財務リスク対策の視点から4回に分けて生命保険商品の基礎知識をご紹介します。

第2回目の今日は、家族収入保障保険です。

会社員Bさんは30歳、一昨年結婚して今年1児を授かり、仕事にも責任が増し、公私ともに充実しているそうです。

先日妻から「生命保険にほとんど入っていないんじゃない?」「やっぱり今保険にはちゃんと入っていた方が良くと思うの」と言われました。実際、妻は赤ちゃんが生まれて、子育てに専念したいという気持ちから、勤めていた会社を退職しました。

家計の収入源はBさん一人の給与だけになったのですから責任は重くなりました。この場合、万一Bさんの身に何かあったら残された家族はたちまち経済的に危機をむかえます。

ですから奥様が言われるように生命保険への加入は不可欠でしょう。

ここからは保険設計上でBさんが選択された保険について説明いたします。

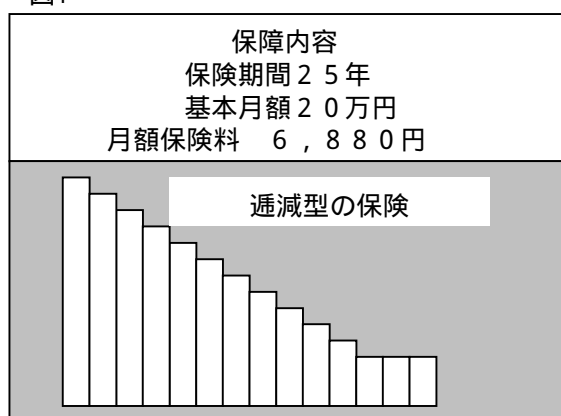
Bさんは給与所得者ですから比較的収入は安定しています。

生活面では、奥様の収入がなくなり、さらに家族が増えて養育費など支出がかさみます。将来的に教育費の準備や住宅購入資金の準備なども必要になってきます。経済的には余裕はありません。

したがって、Bさんのケースでは出来るだけ安い保険料で必要な保障を検討することになりました。

Bさんが契約した生命保険は「家族収入保障保険」というものです。(図1参照)

図1



これは、Bさんに万一の場合、月額20万円の保険金が入るものです。

最大20万円×12ヶ月×25年間=6,000万円の保険金が入ります。(一時金での保険金受取りもできます)

10年後にBさんが亡くなられた場合は、残りの保険期間は15年ですから、月額20万円×12ヶ月×15年で、3,600万円の累積受取保険金額となります。このように保険期間とともに保障額が逓減して行きますので、このような保険のタイプを「逓減定期保険」と呼びます。

逓減型の定期保険は、少ない予算で高い保障を契約することが出来るため、特にサラリーマン層のお子様が小さい家庭で人気の高い商品です。この商品のデメリットは、保障期間が途中でより長期保障に切替えたいときに対応できないことです。その際、新規で保険契約を検討した場合、健康状況により保険引受が出来ないリスクを負います。また、インフレが急激に進んだ場合に、保険金貨幣価値の実質目減りを生じるなどです。

第1回 企業の社会的責任（CSR）とは

企業の社会的責任（CSR）やコンプライアンスという言葉は、最近では毎日のように目に付く言葉です。

このことについてお話していく前に、本テーマのキーワードとなる言葉をご案内します。それは、

- （企業の）誠実な対応
- 価値観と倫理的行動の違い
- リスクマネジメント

の3つです。

これらのキーワードに触れながら、社会的責任とは何か、コンプライアンス経営とは、またどのようなステップで進め、どのような方向性で体制を構築していけばいいのかをお話したいと思います。

1.（企業の）誠実な対応

「誠実な対応」について、少し違う角度のお話を一つご紹介いたします。

あるフレンチレストランでのお話です。

お店の支配人は、このお店共通の価値観を社員等に徹底させています。

それは、「一見のお客様と、常連のお客様は明確にサービスの差をつける」というものです。

何となく違和感を覚える言葉かもしれませんが。しかし、このお店は確実にリピート（常連）客が定着し、その常連客の紹介の広がりや味の評判の良さなどから大変賑わっています。

誰でもそのお店を気に入って、何度か通うようになったある日、友人を誘ってそのお店に食事に行くと、お店の人たちから「さん、いらっしゃいませ」と名前を覚えてもらえて笑顔で対応されれば嬉しいものです。

いつ行っても、誰が応対しても同じようだとさらに気持ち良いものです。

名前を呼ばれ、笑顔でサービスを受けるとプライドをくすぐられて、他の人を誘って一緒に行きたい気持ちになります。（これは良いお客様が良いお客様を誘う良い回転です）お客様は、誠実な態度に思わずそのお店のファンになってしまうのです。

気持ちが良くなるサービスは他にもたくさんあります。

- ・常連さんにしか出さない裏メニューの存在
- ・新商品をさりげなく、常連さんに試食してもらって意見を言ってもらうこと
- ・混んでいても予約が普通の人よりとりやすかったり、待たされなかったりすることなど、一見単純なことですが、一つ一つが、そのお客様にとっては誠実な心遣いを感じられるのです。そのお店に行くとき気持ち良くなるので、また何度も通うことになります。

2. 社会的責任（CSR）とは何か

一般的に、会社側は、商品の価格、商品の品質、顧客サービスを良くすることが事業の成功要因と考えます。もちろん、それは間違っているわけではありませんが、実はその企業が倫理的で誠実であるという評判が、お客様だけでなく、従業員の忠誠度をももたらす大きな要因なのです。

「誠実さ」というよく使われる言葉が、またその行動が、その会社のイメージを良くも悪くもするということをお伝えしたかったのです。

そして、自社の中では「誠実に対応している」と伝えても、相手（メディア等第三者を含む）がそう感じなければ意味がありません。 続く

株式会社日本アルマック
シニアリスクコンサルタント
内尾 裕未

時流を読む

リスクに対する感性が高まれば、自然と時代の「先」を読む力が備わってきます。最新ニュースをリスクマネジメントの視点で分析し、今後の展開や社会への影響を予想してみましよう。

カード情報不正利用被害

米国でクレジットカードの個人情報が大量に流出しました。

国内でも被害が報告されており、情報流出の可能性のある会員数が7万1千件、被害額も1億5千万円を超えると報告されています。

クレジットカードによる個人情報流出被害は単に不正利用だけに止まりません。カードには顧客の属性データ・商品の購入履歴や借入れの状況などの貴重な個人情報があります。ケースによっては購入商品の詳細事項も推定できるほどです。

犯罪者にとって、多様な目的に活用できますから効率的・効果的とあってカード業界は常に不正とのいたちごっこの戦いが続いています。

なお今回の流出事件がデータ処理会社である点も注目されます。リスクマネジメント上、もっとも弱い場所が狙われたからです。

進むグローバル化

2004年度海外営業利益が百億円を超える企業(74社)の海外利益比率の平均が36%に上ると報告されています。

売上高でも上場約1400社で26%に上昇しています。特に製造業では実に38%にもなるということです。

また、外国人持ち株比率についても5割を超える企業が続出する傾向になっています。

世界のGDPに占める日本の比率は13.6%(2004年)ですから、中国市場などを中心に大手企業が世界を視野に入れた活動を意識することは当然のことでしょう。

今後海外市場で影響力を増していくことは、進出国での経済摩擦懸念や外国人株主増加に伴う企業買収や損害賠償リスクを増やすことにもつながりそうです。

本コーナーは、(株)日本アルマック主催セミナー「全国リスクマネジメント研究会」の内容を編集したものです。セミナーの概要、参加申込方法等については、お気軽にお問い合わせください。

編集後記

7月11日深夜、東京メトロ千代田線で、列車が停電の上、緊急停止し立往生する事故が発生しました。私は、約50分間暗い車内に閉じ込められ、最寄の綾瀬駅まで軌道上を歩いて帰るという経験をしました。

(実は今年2月都営新宿線でも同様のことがあり、軌道上を歩いたので2度目の経験です。)

車内放送も無く、情報が全くない状態での50分間は非常に長く感じられました。

今回は大惨事にはなりませんでしたが“冬で雨や雪だったら”や“ラッシュ時だったら”と考えると今回はたまたま運が良かっただけで、やはり大変な事故だったなぁと実感させられます。(小林)

RM INFORMATION 2005. 8

2005年8月発行 定価420円(税込)

ご意見・ご要望は上記までお寄せください。